



～コメディエピソード 受賞 10 作品～

去年のクリスマス日に年長さんと小学生 1 年生の女の子と一緒にクリスマスケーキ作りをしました。

生クリームでデコレーションをお願いして私は、お料理をスタート。

最初はケンカをしたり言い合いをしながらも仲良くデコレーションをしていたと思います。

私が、数分その場を離れていたら、きゃーという声であわてて戻ると、ご想像通り顔を突っ込んでいる年長さん笑。椅子から転んで見事に顔面ケーキの出来上がりでした。

帰ってきたパパと、顔面ケーキを家族みんなで笑いながら食べました。いい思い出になりました。

二年前のクリスマス、娘が 7 歳の時の話です。

クリスマスイブの夜、リビングのテーブルを見ると娘からサンタさんへのお手紙とプレゼントが置いてありました。

お手紙には「サンタさんへ。今年もプレゼントありがとうございます。サンタさんは外国の人だからコーラとチョコレートがすきだと思うので食べてください。それとよかったら虫メガネ使ってください。」と書かれていて、横には買ってきて頼まれていたコーラとチョコレート、それと虫メガネが置いてありました。

サンタさんの老眼を心配しての娘の気持ちが可愛かったです。

我が家には年齢の近い 3 兄弟がいます。

子供たちがまだ小さかった頃、クリスマスイルミネーションを見に出かけた時のこと。会場は行楽施設だったこともあり、ものすごい人、人、人。子供たちはイルミネーションを見上げて嬉しそうでしたが、主人と私は子供たちを見失わないように必死でした。

しばらくして主人が振り返り、血相を変えて「次男がいない！どこだっつっ!!？」と…。

「あなたの肩に乗っているのは…笑」と、私。

主人は、次男を肩車していることをすっかり忘れていたようです。今でも毎年思い出して笑ってます！

クリスマスにご馳走をつくろうと、息子に「お母さんのつくるご飯で何が一番好き？」と聞いたところ、息子に屈託のない笑顔で「白いごはん!」と言われたこと。

クリスマスはたくさんの塩むすびにしようかと、旦那と大笑いしました。

娘が8歳の時のクリスマス。

みんなからもらったたくさんのプレゼントを、幸せそうに両手に抱えてドアを開けようとしたところ、両手が塞がり開けられず助けを求めました。私は『頭を使って、頑張ってごらん?』と自分でどうにか開けられるように考えることを促しました。

すると娘は本当に頭を使ってドアを開けたのです。どんだけ素直なのー!と大笑いな出来事でした。

クリスマスイブ日の話です。

その日は引っ越し日で早々に夜になってしまい小物類等の残りの片付けを翌日に回すことになりました。そのあとの夕食後、最後にケーキを食べようとしてました。

部屋の電気を消して、彼女がローソクに火が付いたケーキをそーっともってきました。その時、小物類をまとめた場所のグラスに身体の一部が当たり床に落ちて割れてしまいました。私が「そこから動くな」と言い、電気スイッチに向かった一歩目「バリツ」踏んでしまい雄叫びました。電気を付けてもらい恐る恐る足裏を確認した所、おかきでした。

まだ子供達が小さい頃、アパートにはサンタさんが来てくれないかもと姉弟はずっと心配していました。

Xmas イブの夜、サンタさんが来てくれるようにとベランダの鍵を開けて寝た子供達、朝起きてプレゼントを確認するやいなや姉がまだサンタが近くを飛んでいるかもしれないよ!と弟に言い、プレゼントを抱えベランダへ走って行き、サンタさんアパートに来てくれてありがとう!来てくれてありがとう!と泣きながら空に向かって叫び続けていました。その声に起こされた近所のおばあちゃんも笑顔で見守って居てくれました。

大学生時代、彼女いない8人で12/24の夜、ロンリーホーリーナイト杯麻雀大会をやった。
最下位には女性が店員をしているコンビニでケーキを買い、その場で一緒に食べませんか？と声をかけるという罰ゲーム。さて順位が決まり、全員でコンビニに入り、レジにてケーキを買った後、女性店員に「アルバイト終わったら一緒に食べませんか？」と他のロンリー達が笑うなか、女性店員がまさかのOK。12/24夜にロンリーホーリーナイトを卒業、そのまま付き合い、結婚。最下位の男が超大逆転勝利、まさかのクリスマスの奇跡を起こした話です。

我が家のクリスマス。

パーティーをしていると、サンタさんがピンポンを押して行ってくれるのです。

2020年に来てくれたサンタさんは、『あわてんぼう』だった様で、プレゼントは庭のあちこちに点々と置いておるし、サンタさんへのお礼に玄関先に置いておいたクッキーは、箱に1つ残り、庭に1つ落ちているという、あわてんぼうぶりwww

あわてんぼうのサンタクロースの来訪に、家族で大笑いした思い出のエピソードです!!

クリスマスの朝、サンタの靴に入ったお菓子セットが枕元にあったのを発見した幼き頃の私。

靴の中のお菓子を外に出し、サンタ靴を自分の足にはめる。お菓子そっちのけで大はしゃぎで家中を駆け回ったところ、思いのほか足にフィットしてしまい抜けなくなりました(´・ω・`)

今でもサンタブーツを見る度に思い出します。